

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100716		
法人名	医療法人社団青藍会		
事業所名	グループホーム竹の子苑		
所在地	桑名市大字西方字斧峠1306-10		
自己評価作成日	平成24年7月30日	評価結果市町提出日	平成24年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2470100716-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 8 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制の中で健康管理や医療面対応へのサービスには力を入れ取り組んでいる。参加可能な利用者による乗馬クラブへの家族の理解と同意を得て行っており、今後も取り組みを継続していきたい。月例の外食支援も利用者、家族に好評であり今後も継続していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市外地の竹林に囲まれた静かな環境にあり、地域の民家からは、少し離れているが、隣接する同系列の老人保健施設との交流は多くもっている。医療連携体制による健康管理、医療対応が密であり、家族等は安心していられる。管理者はじめ職員の交代は少なく、職員間も仲がよく、また、利用者とも和気あいあいで、なごやかな雰囲気である。全職員の勤務体制が、全利用者を介護する方針も軌道にのり、利用者の笑顔と会話が弾んでいる。また、運営推進会議では活発な意見交換がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者への日々の声掛け支援は理念に触れて実践している。	毎朝の申し送り時に「倫理綱領」を声を出して唱和し、理念(笑顔・安心・喜び・尊厳)をも共有し「1日頑張りましょう」と気持ちの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件に恵まれていない為、地域交流が難しいが、地域の小学生やボランティアの方より訪問を頂き交流を行っている。	地理的な条件から自治会の行事への参加は難しく、現在、自治会には加入していない。隣接する同系列の老人保健施設の行事へ参加することで、婦人会の慰問や中学生の体験学習を受け入れ、利用者、家族等の交流する機会になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2470100716-00&PrefCd=24&VersionCd=022	実施が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では意見交換を行い、サービス向上に活用できるよう努めている。	2ヶ月に1回開催し、市職員、地域代表、家族代表等が参加され、事業所の行事内容等のサービス向上にむけての話し合いが、活発にされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口への取り組みや連絡を行い、協力関係を築けるように努めている。	市担当者とは、市主催の研修会、運営推進会議に出席された機会に情報交換をしている。また、書類関係等では電話連絡する等、常に協力関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束には全職員が日々理解を深め心掛けていますが、立地条件、安全配慮の点から玄関の施錠時間帯がある。	やむを得ず時間的に玄関、居室入り口を施錠していることがあるが、同系列の老健施設の研修会(月1回)に参加し、身体拘束のない介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からミーティング等で注意、防止の呼びかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な情報は全職員へ伝達するが、学ぶ機会を持つことへの実施は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族等の言葉に耳を傾けるよう努め、面会時には家族等への呼びかけ、聞き取りも行いつつ意見箱を設置し幅広く意見を反映できる場を設けている。	家族とは来訪時、計画見直しなどについて、ゆっくりと話し合うようにしている。以前に家族の意見もあり、テラスの手摺を木製からアルミ製に変更した事はある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ケア・ミーティングを実施する中で機会を設け、意見の反映に心掛けている。	月1回のミーティング、毎週(火曜日)のカンファレンス等で意見・提案が出されている。現在の勤務体制の1ユニット、2ユニットの職員交流は、職員の提案から実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員への資格取得への支援等を行い、向上心を持って勤務が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月例の職員学習会を実施している。また、隣接の施設での月例職員勉強会への参加も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会や地域の研修、学習会での交流活動の機会を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の希望、不安を聞き取る様努め、利用者を良く知り信頼関係が作れるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族等の要望や不安等を聞き取る機会を十分に設け、お互いに信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で現在利用中のサービス等を聞き取り、必要なサービス支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者に尊敬の念を持ち穏やかに生活を共に出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や体調変化等を詳しく密に伝えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や思いを聞き取り家族へも呼びかけを行い、馴染みの知人、友人との交流がもてるように支援している。	少人数ではあるが知人の来訪や、又、家族による、帰宅や墓参りの協力を得ている。2ヶ月に1回の訪問美容師が馴染みにもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	苑で生活していく中で利用者同士が協力し合い、関係が上手くいくように職員が関わりを持つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人、家族からの要望や相談への必要な支援に努め、関係を大切にしよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での会話や家族等から本人の意向を聞き取り、本人の意に添うよう努め、本人の思いを出来る限り傾聴するよう心掛けている。	常に利用者に対して「何をしようか？」の声をかけをして意向の把握に努めている。また、利用者同士の会話からも意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活習慣等の把握に努め、日々の生活の中に取り入れ、継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来る能力を最大限に引き出せるよう支援に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でカンファレンス・モニタリングで意見交換を重ね、介護計画作成に生かしている。	職員が居室担当制をとっていて、利用者・家族の思いや意向を基に、全職員でカンファレンスの場で、モニタリングを実施し、介護計画を作成している。3か月に1回見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は全職員が共有し、計画の見直しや評価に活かしている。日々の様子や変化は個別に記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期往診、検査等の支援を行い、医療面での家族等の要望にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアより協力活動実績はあるが、利用者の力を発揮して頂ける資源把握については今後も更に支援を進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に医療機関があり、利用連携には適切な支援を行っている。	入居時に主治医の変更を利用者、家族の了解を得て、協力医がかかりつけ医となり、定期往診がされている。他科(精神科、整形外科)は協力医の判断で受診している。歯科医、眼科医は6ヶ月に1回往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より日常の医療面での管理、相談、助言等を受け、利用者の生活に活用できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の支援情報は医療機関へ提出、面会等も行い主治医や家族とも情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、急変時の医療機関との連携について家族の意向・希望を聞き取り説明確認を行っており、納得を頂いた上で対応している。	入居時に「重度化や終末期における指針」の同意契約書を作成している。まだ終末期の経験はない。重度化(終末期)した場合は協力医の指示により尊厳ある終末期を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接施設での職員勉強会の中で、急変時、応急手当の初期対応方法等を学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地条件的に地域協力体制が得にくい為、法人内での対策を更に取り組んでいきたい。	本年春に防災計画をしたが、消防署の都合で中止となった。また、夜間想定訓練はしていない。来12月に消防署の協力を得て防災訓練を実施予定である。	災害はいつ来るか予測できないので、常にその対策が必要である。同系列内の老健施設との連携を更に工夫しながら、訓練を中止した場合の対策、夜間想定訓練、救急救命等を充実されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、利用者や家族に不快感を与えないよう常に配慮するよう心掛けている。	利用者一人ひとりの話を傾聴し、「何がしたいのか」を知り対応している。訪問当日、「居室の紹介を受けている」と、ある利用者が案内してくれる姿があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けにならないよう、利用者一人ひとりの希望や考えを聞き取り支援するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に添うよう個々の利用者のペースを保てるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類等を身に着けるよう支援している。また訪問美容室の利用により、カットやカラーの要望にも支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや調理等、可能な限り一緒に行うよう支援している。個々の利用者の好み等の把握にも務めている。	隣接の老人保健施設と同じ食材業者の献立、調理である。事業所では刻み食、盛り付け、配膳をしているが、利用者が手伝う事もある。週1回(木曜日)は外食したり、好みの献立の食事を楽しんでいる。職員も食事介助しながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量チェックを行い、把握に努めている。日中の水分補給にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1日3回、口腔ケア支援に努めている。夕食後は義歯を預かり、消毒をする支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者排泄パターンを全職員が把握し、自立に向けた支援に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声がけをしながらトイレ誘導をしている。全員トイレでの排泄である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便チェック表の記入を行っており、排泄パターンを把握し、必要な場合は下剤調節の支援を行っている。食材や水分摂取にも努め、自然排便に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者全員が平等に入浴して頂けるように、また楽しんで入浴して頂けるように支援している。	午後は毎日入浴があるが、体調や気分を配慮し、回数調整を行いながら楽しんで入ってもらえるよう支援している。一番風呂が好きな利用者もあり、配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠のある方は、日中活動的に生活して頂き、夜間安眠が出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を良く把握し、服薬確認と記録を行い、不明な点がある時は常に医療機関へ確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みや気分、能力に合わせた役割によって、楽しみや気分転換が出来るよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出や買い物支援を定期的に行い、散歩や見たいものを本人に聞きながら支援を行っている。	天気のよい日は、ベランダに出での外気浴、散歩を兼ね隣接の老人保健施設まで徒歩でかけ、人との出会いも楽しみにもなっている。外食したり、季節によって花見等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食、買い物の際にお金を使う機会を持つよう心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状等をご家族等を書いて頂く支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面は季節感を取り入れた作品展示をしたり、食事中は音楽を流したり、居心地の良い生活感の中で過ごして頂けるよう努めている。	居間の大きな窓からは竹林の緑が鮮やかで、すぐベランダにも出られ、さわやかな風が心地よい。壁には季節感のある作品が掲示されている。また、殆どの時間を過す空間になっており、利用者同士の会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分により居室で過ごされたり、リビングで過ごされたりされるが、皆さんと気分よく安全に過ごして頂ける声掛け支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、入居前に使用されていた愛着のある私物等を活用し、居心地良く安心して頂けるよう努めている。	各個室には、ベッド、押入れ、エアコンが設置され、清掃も行き届き整理されている。利用者によってテレビ、家族の写真、作品も飾られ居心地よく過ごせるようになっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内は安全に配慮した安全バリアフリーになっており、自立に向けた安全な生活が送れるよう工夫している。		